

真高寺だより

第18号 平成24年8月1日発行
発行所：真高寺（伊澤孝順住職）
住所：市原市飯給1143
電話：0436-96-0058
*発行責任者 根本 貞夫
*編集責任者 木村 孝一



（写真提供：山内憲章氏）

お言葉の意味

私たちが口にする米や魚などのあらゆる食べ物、そして水を始めとするあらゆる飲み物は、どれも長い間に大地で育った仏の生命、大宇宙の生命そのものです。それらの飲食物をいただいて、宇宙の自分の生命が生きているのです。

「ああ、ありがとう。ごちそうさまです。」と心から噛みしめて感謝することが、仏道の大切な修行なのです。

道元禅師のおことば

「^{じき}食をして法と等ならしむ」（赴粥飯法）

思うことが功德です

総代会長 根本 貞夫



2年前の8月14日、TBSテレビで北野武主演の「歸國」というドラマが放送されました。ご覧になった方も多いと思いますが、内容は8月15日の深夜、東京駅にダイヤにはない一台の軍用列車が到着する。そこには60余年前に南方の海で散った英霊たちが乗っていた。彼らの使命は、夜明けまでの僅かな時間の内に、平和になった日本の現状を南の海に眠っている戦死者たちに伝えることでした…。

私はこのドラマを見て、たけし扮する大宮上等兵の一言が今も忘れられません。それは次のような言葉です。「人間は二度死ぬ。一度は戦や事故、そして病気で命を落としたとき。二度目は人々の記憶から完全に消えて、忘れ去られたとき」と言うような台詞です。

私はお盆と言う行事は、二度目の死を簡単に引き起こさせないための智恵だと思います。私たちがお世話をした人々をあらためて思い出し感謝することで、いつまでも大事な人に生きていっていただくためのものだと思います。それは取りも直さず、今自分が自分として居られることへの、深く素直な感謝の思いに他なりません。そう言えば、「亡くなられた方々を思うこと、それ自体が功德です」との高田好胤さんの言葉を聞いたことがあります。ありがとうございました。合掌

一大事とは

住職 伊澤 孝順

『修証義』第一章総序第一節に「生を明らめ死を明らむるは佛家一大事の因縁なり…」とあります。自己の生きている意味を明らかにし、死とは何かを極める事が仏教徒にとって、大切な修行のご縁ですと言った意味です。

この「一大事」とは、禅寺の時を告げる木版に書かれている語句「生死事大、無病迅速、各宜醒覚、慎勿放逸」にもあるように、時は人を待たず、すみやかに流れる。無駄に費やすことなく、努力して一大事に向き合うと言う事です。禪宗（臨済宗）の白隱禪師の師匠・正受老人の語句にも、「一大事と申すは、今日ただ今之心なり、それを疎かにして翌日あることなし」とあります。「今日、ただ今」を懸命に生きる事を忘れずに生きましょう。

山内あれこれ



大沼次郎さんお世話になりました

山門保存修理工事の際に、総代として資金集めの元締めである勧募部長を務められた柿木台の大沼次郎氏が去る3月14日にご逝去されました。あらためて此處に心から大峰院次翁耕徳居士靈位の御冥福をお祈り申し上げます。大沼さんありがとうございました。

悼 まぎれなく灯る月日やほととぎす 傘休

二人の新総代です

昨年末に一身上の都合で退任された、養老の河辺政利氏の後任として泉水悦郎氏が、また暫く空白でした大戸の総代として久保田忠氏がそれぞれ就任されました。なお久保田さんの義父は鈴木善助さんです。



泉水 悅郎 氏

久保田 忠 氏

「達磨さんの笑顔」で金蔵さん早く元気に！



お正月の立派な山門飾りや各種山内整備など、50年以上の長きに亘って真高寺が最もお世話になっている顧問の松本金蔵さんが、先月千葉市内の県立病院で入院手術を受けました。10時間を超える大手術でしたが、経過は良好とのことです。一日も早く良くなられて、トレードマークの「達磨さんの笑顔」で、引き続き私たちを元気にご指導下さるよう心より念じております。

10時からです。是非お出かけ下さい

山門大施食会は全檀家の総供養として、例年通り8月15日10時から行います。どうぞ皆様もご一緒に焼香し、各家先祖供養の塔婆をお持ち帰り下さい。必ずやご先祖様が喜ばれるものと思います。なお新盆家は付け施食会として、山門大施食会の後に11時より執り行います。



先祖供養の塔婆の申込みはお早めに

山門大施食会の本旨に立ち返り、昨年から新盆家以外の一般檀家の皆様に先祖供養の塔婆申込みを呼びかけ致しましたところ、百家を超える皆様から申込みがございました。今年は、是非とも全ての檀家の皆様が、先祖供養の塔婆を申しこれますよう願っております。申込みは直接お寺まで、お早めにお願い致します。なお塔婆料は1本3千円です。

新盆家はそれぞれ13家です

今年の新盆家は、靈園関係が13家の13靈位で、既に新盆施食会は7月16日に催行されました。また根檀家は13家の14靈位で、8月15日の山門施食会の時に付け施食会として催行いたします。



靈園檀信徒	7月16日(月)・施食会
松元康雄家	佐久間俊幸家
荒木政幸家	岩間巖家
本間利男家	中丸大家
吉川美和子家	鶴岡秀夫家
吉澤裕子家	玉田和義家
渡里政雄家	中村茂文家
岩崎秀世家	

檀家	8月15日(水)・施食会
大戸	久保田八重子家
飯給	金卷恒男家
飯給	木村恒夫家
万田野	石井いづみ家
柿木台	大沼清家
石塚	四倉利行家
飯給	平野巧家
万田野	佐久間務家
高滝	戸澤優之家
万田野	仲村孝太郎家
柿木台	大沼一江家
平野	渡邊康家
柿木台	積田正典家

今年の棚経は柿木台地区です

今年の盆供養棚経回りは、14日(火) 柿木台地区です。なお、従前は塔婆を持参しての棚経でしたが、昨年から塔婆は山門大施食会での先祖供養の後にお渡しするように改めました。15日にお寺に参拝して直接受け取ることが一番宜しいのですが、どうしても都合のつかない方は地区の総代に後で届けてもらうことになります。ご承知ください。

皆さんのご寄進ご奉仕に感謝

大感謝です



万田野の中山悦夫さんが、労力も資金も提供されて、鐘楼の屋根を入母屋造りに一新されました。棟瓦から草が生え出し、屋根裏にすづめ蜂が巣を作るなど鐘楼の屋根に多くの問題が見られました。この状況を一新し、より立派な屋根に改築しようと発願されての取り組みです。なお資材の一部を杉田建材さん、篠田木材（篠田一也）さんが、また金具類の取り付けは、高山鋳金の高山武志さんがご寄進下さいました。ありがとうございます。

お花の手入れありがとうございます

立派な若木を
いただきました

平野の渡辺康さんより妣様の供養にと、菩提樹・夫婦梅・無患子・富士桜をそれぞれ一株ずつご寄進を受けました。ありがとうございます。



金巻いちさん、加藤美枝さん、松本和子さんの3人が、参道入り口から山門にかけて草花の植え込みや草取りなど、年間を通じて草花の手入れをしてくれています。「お寺が少しでもきれいになった方が、私たちも気持ちがいいから」そう言しながら作業をされています。これも間違いなく立派な利他行です。いつもありがとうございます。



これで一安心です

歩く度にフカフカしていました合板の廊下を美しい檜板で張り替えました。床下の部材から修繕しましたので、今度は大勢の参拝者が見えてもフカフカすることはありません。また雨が降ると本堂の廊下はすぐにビショ濡れでした。そこで雨除けの軒庇を取りつけました。また本堂廊下周りの採光と風通しを良くするために、廊下の奥に窓を新設しました。



花まつりに外国の方も

4月8日のお釈迦様の誕生お祝いとしての花まつりに、今年はインドの方など外国の皆さんも見えられました。当日はまた「ガールスカウト」の皆さんや「歩く会」の皆さんなど、グループの皆さんも見えられました。昨年よりは今年というように、徐々に参拝者が増えるようになってきたことは嬉しいことです。また、当日は参拝者全員に鉢植えの花とお菓子の小袋を用意してプレゼントしました。より多くの人に来て頂くためには、やはりホームページなどの広報媒体を通じて、まず知ってもらうことが必要なようです。



第16教区護持会研修会開かる



6月26日(火) 奉免の満蔵寺を会場として、曹洞宗千葉県第16教区護持会研修会が開催されました。初めに曹洞宗管長の福山諦法さんの「おことば」が特派布教師の福岡県観興寺住職の中嶋道成老師により代読されました。昨年の大震災を踏まえて、快適さや便利さだけを追求する社会から、子供たちが笑顔で生きて行ける、いのちを大切にする社会を築いて行こう。そのために「人権の尊重、平和の確立、環境の保全」の実現を目指すことが、「み仏の絆」を深める佛教徒の在り方です。

この慈悲の実践の根拠は「仏道は自らの利を思わずひたすら他のために尽くすことである」との道元様のお言葉と「坐禅の功德を他の人々にも尽くしなさい」との瑩山禪師様の両祖のお話をされました。

総代会行われる

7月7日(土) 19時より、真高寺檀信徒会館にて恒例の総代会が開かれました。当日は二人の新総代も初めて来られて、久しぶりに総代全員での会議となりました。当夜の内容は8月15日の山門大施食会の運営内容と役割分担の確認です。また、桐生総代からの提案で、お盆に備えての山内の草刈りを8月5日の午前7時30分より行うこととしました。



憧れの名旅館「加賀屋」に泊まります

第16教区護持会が主催して「大本山永平寺と北陸名刹参拝」の旅が11月5日～7日の日程で催行されます。道元禅師様が開かれた大本山永平寺、そして瑩山禅師様が開かれた洞谷山永光寺、そして輪島の總持寺祖院を参拝し、兼六園などを周ります。また二日目は和倉温泉の加賀屋に宿泊します。参加費用は6万円、募集人員は80名、申込み締切りは9月末日です。希望される方は、申込金1万円を添えて真高寺へお申込み下さい。なお詳細は各総代役員又は真高寺にお尋ね下さい。



まだ先のことですが、忘れませんように…



元旦の新年祈祷会に参加された参拝者の皆様に、お寺より祈祷達磨（ダルマ）を差し上げました。まだ先のことですが、差し上げた達磨を除夜の鐘の時に寺に持参してお焚き上げ下さい。今年も先着順ですが、お寺から真高寺の名の入った新しい福達磨を参拝者の皆さんにプレゼントいたします。

檀信徒の皆様へ

ご貴家で万一ご不幸がありました時は、必ず早めに寺の方にご一報下さるようお願いします。また、寺にご意見やご不明な点がありましたら、遠慮なく手紙や葉書、或いはファックスなどでお知らせ下さい。

編 集 後 記

先の17号で記しました灯籠流し会が、飯給町会主催で今年から行われることとなりました。飯給は養老川を挟んで東に運泉寺（真言宗）、西に真高寺があります。町会役員会での協議の結果、当面はお寺を前面に出さずに、町会主体の行事として13日の盆踊りの終了後に会場脇の待場橋下から流すことになりました。



灯籠流し会は多くの場合送り盆の行事とされておりますが、盆踊りを主催している「飯給心和会」の初代会長は先年亡くなられた元総代の金巻利定氏であり、そうした故人を偲ぶ上からも心和会の最大行事である盆踊りの後が適当であろうとの考えです。加えて来年は市原市制施行50周年であり、それに先行する形で地域の新しい伝統行事化への取り組みを試行するものです。

なお、町会以外の方でも事前申し込みされれば、一組千円で伊澤住職祈祷済みの環境に配慮した水に溶ける灯籠を手配します。

問合せ・申込みは実行委員長の木村孝一（☎ 0436-96-0012）迄。